

事業実施報告書

団体名：トコチェア

事業名：障がい者を地域福祉のリーダーにする事業及び「障害」について理解を深めることにより、障がい者など合理的配慮を必要とする人々がより住みやすい街にするために障害平等研修（DET）を開催する事業

1 事業の目的

当団体では、市内の公共施設を中心に多目的トイレの調査を行い、トイレマップをインターネットで配信する事業を行っているが、健常者と思われる人が多目的トイレをパウダールームとして使用するなど、本当に必要としている人が利用できない場面にしばしば遭遇している。また、障害者向けのインフラを整備することも大事であるが、今日本に必要なのは、ハード的なインフラ整備以上に心のバリアフリーの解消であり、障害について学ぶことで、地域の障害者や高齢者などが住みよい街になるように自発的に行動することであると考えている。更に、障害者の引きこもりが解消されない理由の一つが、働く場所がないことなので、障害者が障害平等研修（以下、「DET」という）のファシリテーターになることで、社会で自立する機会を提供することができる上、地域福祉のリーダー的存在になることができる。

2 事業内容

(1) 事業の概要

① DET ファシリテーターの養成サポート事業

埼玉県初となる DET ファシリテーター誕生に向け、NPO 法人 障害平等研修フォーラムが行う DET ファシリテーター養成講座受講生による DET 練習会の開催。

② DET の開催

障害福祉に携わる関係各所にアプローチを行い DET の開催を行う。

障害平等研修（DET）は内閣府 障害者差別解消に関する総合的・部門横断的職員研修として公表されている研修（※1）、更に内閣官房が実施したオリンピック・パラリンピック基本方針推進調査「ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査」試行プロジェクト（※2）にも採択されている研修です。

【障害平等研修（DET）とは】

障害者差別解消法を推進するための研修で障害者がファシリテーター（対話の進行役）となり対話による発見を通し、多様性に基づいた共生社会を作る行動を促す生涯教育。（障害平等研修フォーラムHPより引用）

(2) 事業の流れ

- ① DET ファシリテーター養成講座生に、10月に2回トコチェアカフェとして一般参加者を募集しDET練習会を開催した。
- ② 障害福祉に携わる関係各所にアプローチを行い、計6回のDETが行われた。(トコチェアカフェ含む)

回数	実施日	実施名称	主催	場所	参加人数
1	2018/9/15	障がい平等講習会	新所沢まちづくり協議会/しんとこ福連	新所沢街づくりセンター	30人
2	2018/10/3	トコチェアカフェ	トコチェア (DET 埼玉)	所沢市こどもと福祉の未来館	4人
3	2018/10/28	トコチェアカフェ	トコチェア (DET 埼玉)	所沢市こどもと福祉の未来館	4人
4	2018/12/17	平成30年度第4回地域交流会	入間市障害者基幹相談支援センター	入間市健康福祉センター	64人
5	2019/1/10	第2回和光市自立支援協議会委員懇談会	和光市保健福祉部社会援護課	和光市役所	23人
6	2019/1/21	まなびばしゃべりば冬カフェ	彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク (あったかウエルねっと) / トコチェア (DET 埼玉)	所沢市こどもと未来の福祉館	17人
				参加者合計人数	142人

DET参加者は、議員、行政職員、福祉従事者、障害者（肢体、精神、聴覚、視覚）、民生委員、障害者の保護者、障害者支援団体、一般市民他



2018年12月17日の地域交流会は入間市長 田中 龍夫様のご臨席を賜りました



グループワークの様子

(3) 連携・協力機関

- ① 新所沢まちづくり協議会
- ② しんとこ福連
- ③ 所沢市社会福祉協議会
- ④ 入間市障害者基幹相談支援センター
- ⑤ 和光市保健福祉部社会援護課
- ⑥ 彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク(あったかウエルねっと)
- ⑦ DET 群馬

3 成果及び今後の展開

(1) 成果・効果(下記の参加者の声参照)

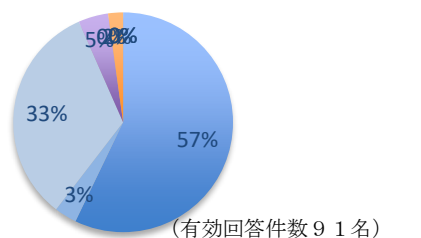
- ① DET を通して、障害に対す理解を深めることができたという意見を多数頂き、同時に障害者がファシリテーターとなって活動していることに対する応援メッセージを頂いたことで、DET がバリアフリーの実現に向け、有効なツールの一

つであることを確信することができた。

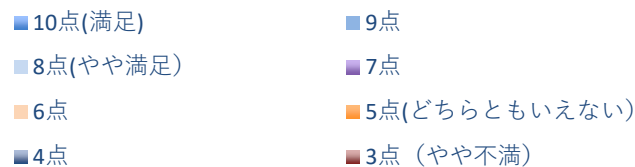
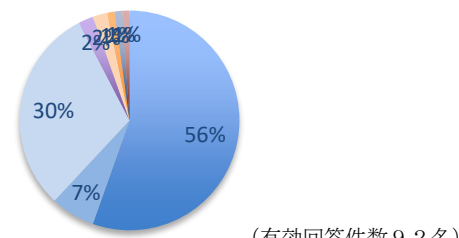
- ② DET ファシリテーターになることが即自立に繋がるわけではありませんが、自立という目的に向かって、重要な第一歩を踏み出すことができた。
- ③ 埼玉県隣県には DET ファシリテーターが存在し、DET を頻繁に行っている地域があるが、今回埼玉県初の DET ファシリテーターが養成されたので身近に DET の開催が行えるようになった。
- ④ 障害者自身がファシリテーターとして進める DET は、今まで障害者と接した事がない人も、対話を行い障害者に対して接することに違和感がなくなったとの意見も多く聞かれた。
- ⑤ DET を行うことにより、参加者の考え方が「障害の個人モデル」から「障害の社会モデル」への変化が多くみられた。
- ⑥ 『DET 全体に関して』のアンケート結果では 8 点以上の「やや満足以上」の割合が 93%あった。『DET の内容に関して』のアンケート結果では 8 点以上の「やや満足以上」の割合も 93%あった。多数の参加者に DET の研修内容及び方法を認められていると考えられる。

DET についてのアンケート結果

DET 全体に関して



DET の内容に関して



(2) 今後の課題

- ① 埼玉県ではやっと DET ファシリテーターが誕生したばかりで、近隣各県では行政職員の研修や学校教育、民間企業への DET が行われ誰もがすごしやすい社会に向けた行動の動きがあるが、埼玉県ではまだまだ認知度が低い。
- ② 埼玉県は他府県に先駆けて平成 28 年 4 月 1 日「埼玉県障害のある人もない人も全ての人安心して暮らしていける共生社会づくり条例」が施行されているが、DET と同じように条例についても認知度を増すための関係機関及び民間機関へのアプローチが必要。

- ③ 障害者自身がファシリテーターとして進める DET は、重度の障害がある人は単独で DET を行えないためサポーター制度や他の福祉グループ等と協力して臨機応変に DET の開催対応できる取り組みが必要。
- ④ 今回トコチェアから埼玉県初のファシリテーターが1名誕生したが埼玉全域をカバーすることは不可能なので、新たな埼玉県民 DET ファシリテーター養成のサポートや隣県 DET ファシリテーターとの協力体制が必要。

【参加者からの声（抜粋）】

- ・ DET 研修、初めて参加しました。参加する前と終了後では考え方が全く違ってきて、正直驚きました。小学校、中学校、高校でもできたら良いなあと感じました。
- ・ 日常的に障害をお持ちの方と接することが少なく、障壁に対する認識も足りなかったと感じましたが、本日の研修を通して自分なりに認識が深まったと思います。
- ・ 障壁のない共生社会を目指したい
- ・ 初めての参加だが、気がつかなかったことを発見できた。もっといろんな人に知ってもらいたい。
- ・ 障害者が主導で行われる研修はとても有意義です。
- ・ 1つ1つに意味があり、順序などがしっかりとなされていて、関心が高まった。
- ・ ユニークな教材（動画）で、分かりやすかったです。自分たちが何をすべきか、考えさせられるものでした。
- ・ 今回、民生委員という立場で参加しましたが、身近に障害にかかわる案件が今まで無くいろいろ知ったということが収穫です。
- ・ 3時間の研修はとても面白く分かりやすく関心の持てるものでした。社会の側を変えていくことを伝える素晴らしい内容だったと思います。（医学モデルではなく社会モデル）
- ・ 色々な所、年齢で研修が行われるといいのと思います。広く広がると良い。
- ・ ある程度、障害に対しての理解は持っていると思っていましたが、研修を受けて改めて気づかされること、新たな発見もあり、視野を広げることができました。
- ・ これからの社会にとっても大事なことだと思った。意識をしっかりとって取り組みたい
- ・ 「障害」についての意識（見方）が変わるキッカケとなりました。
- ・ 障害について、勉強をし始めたばかりだが、ハッと気付かされることが多く非常に勉強になった。
- ・ 今まで、聞いた事が無かったので、今日の研修を受けて考えが変わった。
- ・ 「障害」という言葉の意味を改めて考えさせられました。今日感じた事を伝える事が必要だと思います。
- ・ どうすればもっと DET が広がるのか、大きな視点で考える必要があると思う
- ・ とても重要な事だと思います。一般の人に広めて理解していただくことが必要
- ・ 戸田市内でもこのような研修を広めたい
- ・ 継続開催して欲しいです。様々な障害がある方と、もっと沢山接したいです。

- ・ 障害について、様々なケースや取り組みが必要。実際、現場の方の話もグループ内で聞いた事もかなりプラスになった。
- ・ ぜひ、多くの場所で、DET 研修が開催されることを強く願います。
- ・ もっと色々なところで、このような研修があれば良いと思った。
- ・ 自立支援協議会が地域差別解消協議会を兼ねて、そことコラボしていくのも面白いかもしれません
- ・ またやってほしい
- ・ 障害のことをもっと多くの方に理解してもらえよう、頑張ってください。
- ・ ぜひ、社協の5ヶ年事業のプログラムと連携して地域の方に知っていただけたら良いと思いました。多くの方が知るべきだと思います。
- ・ 私は民児協のお手伝いをさせて頂いていますが、障害者の方と関わって来ていますが、全然知らない一般の方も学ぶといいと思います。
- ・ はじめてこのような勉強会に参加させて頂きました。障害の方の直の声を聞き、ふれあい、大変勉強になりました。日常の生活の頭の中に折に触れ考えながら生活していきたいと思えます。

※1 内閣府HP https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/h29kokusai/h2_02_d.html?

※2 平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査報告書HP

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/pdf/201703_hokoku.pdf

以上